

GREEN RADAR

Vol.481
2019

6

Contents

A-Policy【重点事業方針】

- ・畜産酪農部令和元年度取組み方針
- ・ENEOSカード発券推進による顧客固定化の取組み
- ・JAまごころ宅配～研修会で事業推進と理解を深める～



自己改革工程の進捗状況について 4～6

A-Reports

- | | | | |
|---|----|--------------------|----|
| ・SS事業協同経営「SSマネージャー全体会議」 | 7 | ・新採用職員紹介 | 9 |
| ・長野県スポーツ協会に長野米3トンなどを寄贈 | 7 | ・JA全農長野の事業現況 | 10 |
| ・旨いスープで熱い応援を！ | 8 | ・6月の動き | 10 |
| ・JAみなみ信州「買って当てよう！商品券プレゼントキャンペーン」を実施 | 8 | ・編集後記 | 10 |
| ・「FABEX2019デザート・スイーツ&ベーカリー展」に出展 | 9 | | |
| ・全農杯 全日本卓球選手権大会 長野県大会に副賞を提供 | 10 | | |



畜産酪農部

畜産酪農部令和元年度取組み方針

昨年9月、国内では26年ぶりとなる豚コレラの発生が岐阜県の農場で確認されて以降、本年2月6日には県内でも感染が確認され、飼養豚2,482頭の殺処分を含む様々な防疫措置が講じられました。5月10日現在でも、1府4県で22事例、48農場、88,000頭を超える豚が殺処分されました。



SPF豚繁殖センターで飼育されている子豚

た。また、野生イノシシも岐阜県で390頭、愛知県で14頭の感染を確認、直近の中津川市での感染事例では半径10km圏内に本県も含まれるため、県内養豚農家ならびに畜産関係者には緊張感が高まっています。JAグループでは、行政と協力して、県内の養豚場に持ち込ませないための防疫対策として、牧柵や防鳥ネットの設置などに取り組んでいます。このような状況も踏まえ、令和元年度、畜産酪農部は以下に掲げる具体策をもって事業に取り組みます。

- (1)生産基盤維持と販売数量の確保
 - ①空舎利用による補完的生産事業の取組み
 - ②肥育素子豚の安定的確保と事業方式の取組み
 - ③自家産後継牛の確保と乳質改善対策
 - ④県本部奨励施策による基盤の維持確保
 - ⑤生乳生産基盤緊急支援事業による販売数量確保

- (2)信州産ブランドの販売強化と生産性向上による農業所得の増大
 - ①信州ブランド畜産酪農品の県内外での販売促進
 - ②生産性向上巡回の継続実施ならびに農場HACCP等の取り組み啓蒙
 - ③飼料用米の利用や集送乳合理化によるコスト低減
- (3)県本部生産農場の機能充実と経営の安定
 - ①三岳牧場／肥育事業、預託頭数の拡大、飼料コストの削減
 - ②ハケ岳牧場／効率的な搾乳頭数の維持、販売育成牛の増頭
 - ③SPF豚繁殖センター／繁殖成績向上による販売子豚頭数の確保
- (4)地域畜産酪農営農センターの機能強化と設置検討
 - ①現行センターの課題と対応
 - ②新規センター設置に向けた課題整理
- (5)食肉処理場のあり方協議の継続
 - ①「長野県食肉流通合理化検討会」への参加

今年度は、発効したTPP11や日欧EPAの2年目として、関税の更なる引き下げが実施されました。また、日米間で実質的なFTAである日米貿易交渉が開始されました。過去から国際貿易交渉では、常に、畜産酪農製品が標的となってきた歴史があります。長野県内は決して規模が大きくない農家による畜産酪農業が中心です。一度失われた生産基盤はなかなか元に戻せないため、補完的な生産により数量確保を図りながら有利販売の仕組みをつくり、生産性向上による農家所得の増大を目指して生産基盤の維持が図れるよう、畜産酪農部では本年も取り組みを進めて参ります。



農協牛乳

燃料ホーム・エネルギー課

ENEOSカード発券推進による顧客固定化の取組み

SS事業を取り巻く環境は、省燃費車の普及により燃料油需要が減退しており、その傾向は今後も続いていくことが確実視されています。そのような厳しい環境下において、事業を継続していくための重要なポイントとして「顧客の固定化」が挙げられます。

長野県JA-SSでは、顧客の固定化のための重要アイテムの一つである「ENEOSカード」の発券推進に取り組んできました。ENEOSカードには「燃料油の値引き・ポイント還元・無料ロードサービス付帯」などのお客様向けメリットがあり、顧客の固定化に大きな役割を果たします。

平成31年3月末における長野県JA-SS発券のENEOSカード会員数は、約6万件となっています。過去からの継続的な取り組みの成果により、非常に多くのお客様が長野県JA-SS発券のENEOSカードを所持する状況となっています。また、今年度も新規の会員獲得を目指し、多くのSS

で入会フェアなどを実施しています。

さらに、長野県JA-SSではお客様様の固定化に向けて、他のSSにはない独自特典を用意しています。長野県JA-SSで発券されたENEOSカードであれば、JAのSS、配達灯油、プロパンガスのお支払いで半年間に5万円以上ご利用いただいた方の中から、抽選で1,000名様に「JAまごころ商品券2,000円分」を進呈しています。独自特典により他店との差別化を図り、JA-SSでの発券・利用促進を目指しています。

SS事業環境は今後も厳しさを増していきますが、お客様に選んでいただけるJA-SSを目指して、ENEOSカードによる顧客固定化の取組みを、今後も引き続き展開していきます。

長野県JAでご入会すると...

ENEOSカードの特典に加え、長野県JAオリジナル特典をプラス!

抽選で1,000名様
JAまごころ商品券2,000円分プレゼント!

※当選は抽選で1,000名様にJAまごころ商品券2,000円分をプレゼントいたします(当選者以外の方は商品券はございません)。当選者には抽選で1,000名様にJAまごころ商品券2,000円分をプレゼントいたします。抽選は、抽選日前の抽選となります。抽選結果は、抽選結果発表ページに掲載いたします。

ENEOSカードのご利用金額が、年間20万円以上50,000円以上の会員の方(本人会員)に、抽選で1,000名様にJAまごころ商品券2,000円分をプレゼントいたします(当選者以外の方は商品券はございません)。当選者には抽選で1,000名様にJAまごころ商品券2,000円分をプレゼントいたします。抽選は、抽選日前の抽選となります。抽選結果は、抽選結果発表ページに掲載いたします。

ENEOSカードの6ヵ月間のご利用金額例

JA-SSでガソリン購入 5,000円/月×6ヵ月=30,000円	JA-SSで洗車 1,000円×2回=2,000円	JA-SSでオイル交換 4,000円×1回=4,000円
プロパンガス利用料 4,000円/月×6ヵ月=24,000円	JAで灯油購入 1,600円×3回=4,800円が記録されます。	
合計: 64,800円		

※各加盟店で必ずこの金額を記録する必要があります。

お問い合わせは JA全農長野 生活課 燃料課 TEL.026-236-2260

入会申込書はSSスタッフにお申し付けください。

ENEOSカード 入会のご案内

長野県JA専用

入会するなら長野県JA-SS!

利用するなら長野県JA-SS!

県下のJA-SSで共通でお使いいただけます。

国内・国外のショッピングにお使いいただけます。

もちろん、A・コープ店でもお使いいただけます。

ご入会＆ご利用、どちらも長野県JA-SSがダンゼンおトク!!

※一部のJAでは、JA協賛店舗でポイント加盟店にもご利用いただけます。

JA-SS NAGANO

生活課

J Aまごころ宅配
研修会で事業推進と理解を深める

J A長野県生活事業推進協議会（事務局／J A全農長野生活部）は5月8日（水）、全農長野広域宅配センターで「宅配推進者研修会」を開催しました。「J Aまごころ宅配」事業の推進と理解を深めることを目的とし、当日はJ A担当課長や配送担当者、全農長野の関係職員、計20名が出席しました。

◆取扱商品の試食と特徴を確認

会議では、宅配独自商品と市販商品との食べ比べや商品の特徴を確認するため、昼食を利用して実際にお客様にお届けする取扱商品を試食しました。試食や、商品に触れることにより取扱商品の理解を深めることは、J A宅配の良さを知り、個々のニーズに合わせた食生活の提案につながるため、J Aでの組織商品研修会や宅配利用者懇談会でも積極的にを行っています。

◆広域宅配センターの視察

広域宅配センターでは、全会員の

◆推進活動の事例紹介

商品の入荷や検品、個別の通い箱にピックアップをするライン等を視察しました。深夜から早朝に行われる箱詰め作業は、食材の選定からお客様の自宅に届くまでをまとめたDVDを視聴し、確認しました。全農長野が制作したこのDVDは、組合員の皆さんが集う場所でも機会を見て視聴していただいています。

◆意見交換

実際の推進活動について、J Aの推進担当者から事例紹介をしていただきました。「広報誌やローカル誌に宅配の案内をしたら問い合わせがあった」「簡便商品のいきいき便利メニューは地元の社会福祉協議会に案内をして対象者を紹介していただいた」「時間をつくり山間地を中心にポスティングをしている」「新規加入会員宅へ慣れるまで声掛けをしてフォローしている」等、出席者の参考になる事例が多くありました。

会議の後半は、3グループに分かれて意見交換と発表の場となりました。グループごとにテーマを選び、活発な意見が交わされました。

発表では、「おためしセットが無料のため加入につながらない」といった悩みから、「おためしセットは全ての商品をチラシに掲載してPRすればいい」「農繁期限定で推進をしている」「加入者には声を掛けてコミュニケーションをとりたい」「J A職員にも知ってもらう努力が必要」「宅配の配達の際には推進スケジュールを組み込んだらどうか」といった前向きな意見が出されました。

今回いただいた貴重な意見・提案を基に、宅配利用者の新規加入推進はもちろん、既存会員の皆さんに加入メリットをPRし継続利用していただくよう、今後もサービスレベル向上に努めてまいります。



意見発表



広域宅配センターの視察

※表紙右上の写真／宅配商品の説明をする全農長野職員

J A 改革
自己改革工程の
進捗状況について

全農長野県本部は、J Aおよび子会社とともに、J A自己改革の進展を加速化させ、農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

I. 【自己改革における最重点施策】 平成31年3月末時点での総括

その1▼営農支援体制の充実《担い手に対する出向く体制強化および労働力確保》

- (1) 出向く体制強化は、J A・県域による共同訪問を実施するとともに、J A別の共同対策について具体的にすすめました。また、農業労働力確保対策および営農指導体制の強化については、県と連携した情報交換会ならびに研修会等の開催による体制整備をすすめているほか、指導者会議をブロック別に開催して連携強化に取り組みました。
- (2) 担い手ニーズの対応として、農家戸別銘柄「B Bわたしの肥料」の提案推進により、野菜産地を中心に取扱が拡大しているほか、農業の農家直行配送の利用し易い条件へ見直しをすすめています。また、水稻超大型規格農業は取り組みが着実に広がりました。
- (3) 畜産・酪農では、県本部生産農場での素畜供給拡充、J Aと一体となった営農指導の強化、空舎を利用した生産農場の準備による生産基盤の維持確保に取り組みました。

その2▼農業所得の増大《J A・県域による販売力強化とコスト削減》

- (1) 農業所得増大に向けて、計画・適正生産の推進ならびにブドウの輸出拡大に取り組んだほか、集出荷対策向上のため、多様な生産者への販売企画提案をすすめました。また、消費宣伝活動として統一ロゴの活用やSNS発信を通じ、長野県産農畜産物の認知度向上に努めました。
- (2) 生産資材は、原材料ならびに銘柄・規格の集約をすすめるとともに、省力型B B肥料の普及拡大、農業機械の低価格モデルの共同購入、県域レンタル・中古機流通拡大による生産に係るトータルコストの低減に取り組みました。

その3▼ライフラインの充実《地域の生活基盤整備》

- (1) 地域のライフライン充実に向けて、J A別マスタープランを通じたSS店舗の経営強化をはじめ、配送システム活用による灯油配送事業の効率化をすすめたほか、ガス事業については、全J A販売所にGLAを設置して営業力強化に取り組みました。
- (2) 宅配事業では、おまかせコース会員を主体とした戸数維持ならびに宅配利用者懇談会の実施による事業拡大に取り組みました。家庭菜事業では、J Aとの連携強化による配置戸数の確保とコンプライアンスの徹底に努めました。

II. 各事業別 平成31年3月末進捗状況

【J A長野県営農センター】

実行具体策		30年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 中心的担い手等の育成・支援				
(1) J Aと県域の出向く体制整備	全J A	14 J A		県域の訪問先の情報を提供するとともに、県域との共同訪問について14 J Aに提案を行った。共同対策について引き続きJ A別に協議する。
(2) 労働力確保情報交換会等の開催	2回	情報交換10回 研修2回		県等と連携し、情報交換会・研修会等を開催した。31年度より「J A長野県農業労働力支援センター」を設置し運営する。
2. 営農指導体制の強化				
(1) 担い手アンケートにもとづく指導体制強化	4 J A	4 J A		4 J Aで実施し営農指導事業でのP D C Aサイクルをまわす取り組みをすすめた。
(2) 品目別ボトムアップ研修会開催（受講者数）	20人	52人		経営管理ボトムアップ研修会を開催（4回）し、52人が受講した。
(3) 指導者会議 ブロック別検討会開催	60回	63回		積極的な取り組みにより計画を達成した。
3. 栽培技術等によるコスト削減推進				
(1) リンゴ・M 9台木の取木繁殖技術定着推進とウィルスフリー化台木生産	45千本	45千本		リンゴフェザー苗の生産供給を継続推進する。
(2) 業務用多収穫省力化技術研修会開催 ①供給先別果樹多収穫技術研修会 ②業務用野菜栽培技術研修会	①2回 ②3回	①2回 ②2回		①りんご高密度植わい化栽培研究会・指導会。 ②キャベツ・ダイコン機械収穫一貫体系の実践検証等。
4. 安全・安心な信州農作物の生産・供給				
(1) 残留農薬自主検査の実施	1, 7 0 0検体	1, 6 5 0検体		ほぼ計画通りの検査となった。
(2) G A P・トレース産地条件等の研修会開催	4回	4回		G A P全体会議、地区別等の研修会を実施した。

【畜産酪農部】				
実行具休策		30年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 生産基盤の維持確保				
(1) 空舎利用による生産農場の稼働	1農場	1農場準備	J A子会社立上げ準備、31年6月稼働予定。	
(2) 生乳出荷量の確保	95,000t	90,638t	県本部酪農生産基盤強化対策事業等を活用した乳用後継牛頭数の維持拡大。	
(3) 農場HACCPモデル農場の設置	3農場	3農場検討	1農場について取り組みを始める。	
2. 信州産ブランドの確立				
(1) 信州プレミアム牛肉の販売促進	2,000頭	2,185頭	和牛出荷の増加、品質維持。	
(2) 特色ある「信州産」牛乳・乳製品の商品開発・販売	開発・販売	イベント等での信州産牛乳・乳製品のPR	SBCミルクマガジン牛乳セミナー、信州の畜産酪農キャンペーンの実施。	
3. 飼料用米の流通体制の確立				
(1) 流通数量	1,700t	1,184t	30年産飼料用米。	
4. 地域畜産酪農営業センターの設置				
(1) 進捗状況	2箇所検討	2箇所検討	J A、専門酪との事業懇談会における意見聴取。	
5. 県本部生産農場の素畜供給機能拡充				
(1) 素牛販売頭数（二岳牧場）	50頭	60頭	育成成績の向上・維持。	
(2) 素子豚供給頭数（SDF豚繁殖センター）	21,600頭	22,536頭	多産系種豚への切替、生産技術向上による供給頭数の増加。	
(3) 初妊牛上場頭数（ハケ岳牧場）	30頭	20頭	相対取引含め県内供給を推進。	

【生産販売部】				
実行具休策		30年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 生産基盤の維持・拡大				
(1) 多収穫・省力栽培による規模拡大 ①コギクの生産拡大 ②加工業務用野菜の拡大推進	①235万本 ②キャベツ1,200t	①200万本 ②キャベツ1,052t	①高温のため遅れ等発生し集荷対策をすめたが未達。生産振興の継続と出荷規格の見直しをすめる。②作柄不良・荷姿変更等により減少。新規顧客提案と機械収穫試験、反収向上対策試験を実施。今後も継続実施。	
(2) 計画・適正生産の推進 ①シナノリップ早期産地化 ②夏ハクサイの適正生産 ③レタス生産力維持	①新規1万本 ②220万ケース以内 ③1,300万ケース	①約6,000本 ②218万ケース ③1,290万ケース	①夏場の高温等により良質なフエザイ苗が減産。引き続き需要に応じたフエザイ苗の増産をすめる。②作期誘導、代替品目生産により価格確保ができた。次年度も年間計画生産に取り組む。③計画比90%、昨年比109%。秋作の作柄安定対策と単価向上を目指す。	
2. 集出荷対策の向上				
(1) 広域集荷やバラ集荷などモデルJ Aでの多様な集荷体制整備（協議）	果実／1件 野菜／1件 きのこ／1件	果実／2件 野菜／1件 きのこ／1件	果実／2J Aにて、シナノゴールド、サンふじのバラ出荷対応。約1,500CT。野菜／県外共通体制の調査、収支計算による重点J Aへの提案、アスパラ自動計量結束機の実演会の開催。きのこ／J Aとの課題確認実施。J A構想に併せた整備が必要となる。課題は横もち運賃、集荷便確保。一元集配送目標に取り組む。	
3. 商品提供力の強化				
(1) 多様な販売手法への取り組み ①リンゴ長期貯蔵販売の拡大	①20,000コンテナ	①17,040コンテナ	天候の影響で、品質低下が目立ち、貯蔵仕向けが減少（計画比85%）。引き続き継続した取り組みをすめる。	
(2) 加工・業務需要、輸出事業への対応強化 ①ブドウ輸出の拡大	①10億円	①9.6億円	①計画比96%。シャインマスカットを中心に、東南アジア圏への輸出。引き続き商品提案を行い販路開拓をすめる。	
(3) 総合品目宣伝による認知度向上	実施	実施	情報発信ツール（各品目動画等）を作成中。各種品目販促ツールが順次完成。作成済動画のSNS、YouTubeによる発信、本会HPを含む活用方法の検討。	
4. J A・県本部一体となった長野米集荷推進の実施と販売力強化				
(1) 集荷数量の確保	78,300t	出荷契約比99%の集荷確保	①主食うるち米の概算金引上げ、集荷奨励等を通じて、出荷契約数量を上回る集荷を推進する。 ②長野米輸出・消費宣伝を引き続き積極的に取り組む。	

【生活部】				
実行具休策		30年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. J A別SSマスタープランの実践				
県下SS数	155SS	155SS	SSマスタープラン見直し計画に基づき統合を実践する。	
2. ガス事業の営業体制強化				
GLA設置販売所数	15販売所	39販売所	全J AにおいてGLA活動を展開し、販売促進企画書に基づき営業力強化に努めた。今後、階層別研修会を開催し、燃費・暖房推進に取り組む。	
3. 営業車の取扱強化による台数確保				
取扱台数	3,000台	2,843台	衝突被害軽減ブレーキを装備した長野県限定車の設定により営業車取扱台数の拡大に努めた。ススキ「キャリアー」のJ A仕様車設定に向けた検討をすめる。	
4. SS協同経営の収支改善				
カーメンテ収益の確保（供給金額）	534百万円	549百万円	統一・独自供給促進に取り組みカーメンテ供給に努めた。今後も拡販施策を実施し、供給高の確保に取り組む。	
5. 生活事業取扱強化				
(1) 満足度向上と推進体制強化による宅配おまかせ会員戸数の維持	7,000戸	6,237戸	利用者アンケート等により満足度向上に努め、休止会員への再開案内を開始し戸数維持に努めた。引き続きJ Aと連携し戸数維持・確保に取り組む。	
(2) 巡回体制強化による家庭薬配置戸数の確保	89,000戸	84,016戸	コンプライアンスの徹底と配置員の資質向上に努めた。配置戸数は高齢化等により減少傾向にあるが、J Aと連携し戸数の確保に取り組む。	
(3) セレモニー県域施行件数の確保	4,000件	3,856件	施行件数確保に向け小規模葬ニーズへの対応等に努め、墓所清掃・布団供養の拡大をすめた。事業環境に対応した取り組みをすめる。	

【生産購買部】				
実行具休策		30年度計画	進捗状況	達成度合いと今後のすめ方
1. 包装資材価格のメリット創出				
(1) 段ボール原紙アイテムの集約	累計10アイテム	累計10アイテム	小ロット原紙の集約を実施。今後も使用量の少ない原紙の集約に取り組む。	
(2) 段ボールの規格集約	累計5規格	累計5規格	サニー・リーフの抜き型を集約した。型集約の視点も含めて規格集約を拡大する。	
2. 担い手ニーズへの対応				
(1) 「わたしの肥料」の取扱拡大	2,650t	3,485t	南佐久を中心に受注が大きく増加。更なる拡大を目指す。	
(2) 農業の農家直行方式拡大	160戸	154戸	果樹・野菜農家向けで計画未達成。直行条件の見直しを行い、拡大を目指す。	
(3) 水稻超大型規格農薬の取扱拡大	1,800ha	1,943ha	取り組みが着実に広がり計画を上回った。更なる面積の拡大を目指し、品目の充実をはかる。	
3. トータル生産コストの抑制				
(1) 省力型B B肥料の普及拡大	7,200t	7,631t	新規銘柄の普及がすすみ拡大となったが、引き続き更なる普及を目指す。	
(2) より安価な緩効性窒素肥料のB B原料への活用	250t	239t	野菜向けで浸透せず計画未達成。31年産に向け提案済み普及・拡大に向け更なる推進に取り組む。	
4. 農機コスト低減の取り組み				
(1) 県域推奨型式設定による重点購買	累計5型式	累計5型式	従来の3型式（トラクター20PS、トラクター25PS、畦草刈機に加え30年度は2型式管理機2型式）を追加設定し供給を開始。次年度は小型農機の追加を検討する。	
(2) 中古機流通拡大に向けた不用農機査定・買取の取り組み実施	累計4J A実施	累計3J A実施	北信3J Aで、不用農機の査定・買取について地域情報誌・J A広報誌で告知し取り組みを実施。次年度は、他J Aへ水平展開する。	
(3) 県域レンタル事業実施J Aの拡大	4J A実施	5J A実施	4J Aヘトラクター、1J Aヘキャベツ収穫機の貸出を実施。次年度は、圃場の排水対策を目的としたカッタードレンミニの貸出推進に取り組む。	

SS事業協同経営「SSマナージャー全体会議」

JA全農長野SS協同経営課は4月22日(月)、県下各地の協同経営SSマナージャーが一同に会する、今年度1回目、平成最後の「SSマナージャー全体会議」を開催しました。

全農長野の池田洋一生活部長が、今年度の事業推進にあたり「事業環境と課題」「JA自己改革重点取組事項」「事業計画必達方策」を示しました。また、昨年度の年間油外商品販売優秀スタッフ、マイスター制度の資格取得者、バッテリープロアドバイザー認定者などの表彰を行いました。

また、JXTGエネルギー(株)の神田正担当より、7月以降に新たに導入される「ENEOSTabレット」「Ennekey」の説明と、タブレットによるENEOSカード発券の実演があり、出席者は熱心に耳を傾けていました。

令和元年、SS業界も大きな転換期を迎えています。

組合員はじめお客様の利便性向上を念頭に置き、更なるSS運営強化を図ります。



今年度の事業推進について説明をする池田部長

旨いスープで熱い応援を！

県本部きのこ専門委員会(事務局/JA全農長野きのこ課)常任委員会は、大型連休中の5月4日(土・祝)に松本市アルウィンで行われた松本山雅FCvsセレッソ大阪戦において、オリジナル販促用資材の『きのこを食べるスープ コンソメ味』を使ったスープを振る舞い長野県JAグループ産きのこのPRをしました。快晴のもと、会場となったファンパークは翌日の子供の日に合わせた催しなどもありセレッソサポーターも含めて大勢の家族連れで賑わいました。常任委員であるきのこ生産者がお勧めするえのきたけ・ぶなしめじ・なめこ・エリンギがたっぷり入ったスープに小さなお子様からも「おいしい」「もっと食べたい」との声が上がり、用意した1,500食分のスープは約1時間で終了となりました。



振る舞いの様子



きのこをたっぷり入れたスープ

長野県スポーツ協会に長野米3トンなどを寄贈

JA全農長野生産販売部は、県内青少年スポーツ選手の強化に役立ててもらおうと、長野コシヒカリなどを(公財)長野県スポーツ協会に寄贈しました。

寄贈したのは長野コシヒカリ3トン、信州まるごとりんごジュース3,000本、ふるさとのなめ茸茶漬け1,500本。県スポーツ協会より、木曾少年相撲クラブ、上田西高校レスリング部、飯山高校スキー部など、全国をはじめ各種大会で活躍している県内の13団体に分けられます。

4月25日(休)の贈呈式で、全農長野の鳥田武司副本部長が県スポーツ協会の林泰章理事長に目録を手渡しました。鳥田副本部長は「長野県の選手が、来年の東京オリンピックをはじめ様々な大会で活躍することを期待して贈呈します」と激励しました。

林理事長は「選手は各競技で結

寄贈先		
No	所属団体名	種目
1	木曾少年相撲クラブ	相撲クラブ
2	上田西高等学校	レスリング部
3	上田西高等学校	サッカー部
4	飯山高等学校	スキー部
5	松本第一高等学校	柔道部
6	伊那西高等学校	新体操クラブ
7	軽井沢高等学校	アイスホッケー部
8	佐久長聖高等学校	駅伝部
9	佐久長聖高等学校	スケート部
10	松本国際高等学校	男子バレーボール部
11	長野東高等学校	陸上部
12	東海大学付属諏訪高等学校	男子バスケットボール部
13	松本山雅FC	ユースアカデミーU18

※表紙左下の写真/J県スポーツ協会の林理事長(左)と全農長野の鳥田副本部長(右)

JAみなみ信州『買って当てよう！商品券プレゼントキャンペーン』を実施

JAみなみ信州は、きのこの重点取引先である、ユニー(株)、(株)ハローズ、(株)長野県A・コープにおいて、同JA産のきのこを購入されたお客様に、各店の商品券を抽選でプレゼントするキャンペーンを7月31日(水)まで実施しています。JAみなみ信州が発案し、各店とJA全農長野が共同で実施する企画で、ユニーとハローズでは今年で5年目、A・コープ(同JA管内5店舗)では今回が初の実施となります。盛夏期におけるきのこの消費喚起策として、店舗での売場確保、来店されるお客様へのPRが大きな目的です。各応募はがきには対象商品の購買動機や料理レシピに関するアンケート記入欄を設け、今後よりよい商品提供につながるよう取り組んでいます。



画像左から/ハローズポスター長尺、A・コープはがき、ユニーはがき

FABEX2019デザート・スイーツ&ベーカリー展

J A全農長野果実課は、4月17日(水)から19日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された展示会「FABEX(ファベックス)2019デザート・スイーツ&ベーカリー展」に出展し、県産果実のPRと商談に臨みました。

「長野県産果実の新たな挑戦」をテーマに、新たな付加価値を創出すべく食品メーカー商品開発担当者やパティシエ、ホテルシェフといった業務用取り扱いパートナー探しを



来場者の注目を集めた全農長野ブース



原料に長野県産果実を使用している商品を展示

行っていく本県産果実の魅力発信を行いました。
今回の出展では、1MCP処理技術を用いた長期貯蔵リンゴやシナノゴールドの無調味セミドライの試食に加えて本県産ラズベリーの産地化にむけて試験栽培している冷凍ラズベリーのPRも行いました。「国産」「産地指定」、特に「長野県産」での取り扱い要望は強く、本県産果実の期待値の高さを感じました。
果実課では、今回の展示会をきっかけとして新たな販売ルート開拓にむけた事業を行ってまいります。

新採用職員紹介

【生産購買部 生産資材課 桜井 涼香】

はじめまして、生産資材課の桜井涼香です。農業を担当しております。出身は上田市で、特技は高校から始めたクラシックギターです。
今はまだ、分からないことや出来ないことが多く勉強の日々ですが、一日でも早く仕事を覚え、戦力になれるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



農業の勉強がんばります！

【生産販売部 米穀課 青木 典子】

はじめまして。米穀課の青木と申します。長野市出身で、就職を機にUターンしてまいりました。毎朝、白米とお味噌汁を食べてから通勤しています。特技はすべることです。スケートもギャグもよくスベります。
まだまだ未熟で至らない点も多いですが、日々学ぶ姿勢を忘れずに努力していきたいと思っています。よろしくお願い致します。



長野米パワーでがんばります！

全農杯 全日本卓球選手権大会 長野県大会に副賞を提供

全農が特別協賛している「全農杯 平成31年度 全日本卓球選手権大会」の長野県予選会が、5月11日(土)に飯山市民体育館で開催され、J A全農長野は副賞を提供しました。

県予選会には、長野県卓球連盟に登録している小学生175名が出場し、ホープス(小学6年生以下)、カブ(同4年生以下)、バンビ(同2年生以下)の部に分かれ、熱戦を繰り広げました。入賞者には、1位に長野米10kgとカレーセット、2位に長野米5kgと炊き込みご飯の素、3位と4位に長野米2kgとなめ茸(3位決定戦なし)、参加賞として全選手にりんごジュースを贈呈。4位以上の選手は、7月26日(金)〜28日(日)に神戸市で開催される全国大会に出場します。



6月の動き

4/27(土)~6/15(土)	長野県産レタス・アスパラガスキャンペーン	野菜花き課
6/1(土)	松本山雅FCホームゲームイベント(牛乳PR) サンプロ・アルウィン(松本市)	総務広報課
6/15(土)	松本山雅FCホームゲームイベント(農畜産物PR) サンプロ・アルウィン(松本市)	総務広報課
6/16(日)~8/18(日)	長野県産夏やさいキャンペーン	野菜花き課
6/20(木)	(株)全農長野計算センター JA長野県ビル (株)JAアグリエール長野 JA長野県ビル (株)マイパール長野 JA長野県ビル (株)ジェイエイオート長野 JA長野県ビル 長野県農協直販(株) JA長野県ビル (株)長野エコープサプライ JA長野県ビル (株)長野県食肉公社 JA松本市会議室 (株)長野県A・コープ JA長野県ビル (一社)長野県農村工業研究所 JA長野県ビル	総合企画部
6/21(金)		
6/28(金)		

JA全農長野の事業現況

平成31年度4月末部門別実績表 (単位:百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
野菜種苗センター		40	115	113
生産振興部計		40	115	113
米	穀	1,563	96	109
果	実	64	143	120
野菜花き		784	111	115
きのこ		1,441	130	146
営	業	335	92	111
生産販売部計		4,186	109	121
包装資材		579	101	151
生産資材		1,775	107	99
農業機械		638	108	97
施設住宅		132	163	48
生産購買部計		3,124	108	100
畜産		1,528	122	112
三岳牧場		37	114	108
SPF繁殖センター		29	116	115
酪農		1,084	100	99
ハケ岳牧場		20	109	108
畜産酪農部計		2,698	112	106
燃料・ホームエネルギー		2,400	121	114
SS協同経営		1,087	117	105
生活		1,020	111	106
生活部計		4,507	117	110
長野県本部計		14,555	112	110

(内部販売高含む)

編集後記

年号も令和に改元され新たなスタートを切りました。また、最長10連休と長期休暇のゴールデンウィークも終了し、世間では休み疲れなどが報道されていますが、農業は春の繁忙期に入っています。天候も今年は早く暖かくなりそうな気配でしたが、不安定な天候が続き雷雨・降雹・凍霜害と農作物への被害報告がされています。今後の農作物への影響が心配です。

先日、ある講演会に参加する機会がありました。その締めくくりに「人生にコールドゲームはない」との言葉が印象に残りました。諦めずに挑戦し続けることの大切さを再認識した次第です。

6月1日は「牛乳の日」、また6月は「牛乳月間」です。国際連合食料農業機関が提唱し、日本では一般社団法人Jミルクが定めました。農作業が忙しいこの時期に「牛乳」で健康サポートをしてみたいかがでしょうか。



愛してミルク?
6月は牛乳月間



メイドイン信州 信州100%



信州の牧草を食べて
信州の酪農家の愛情いっぱいにつった牛の牛乳を
信州の人が飲んで育つ
わたしはメイドイン信州—信州100%



光と風と水のハーモニー
JA全農長野



100%
信州産



光と風と水のハーモニー
JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

